

EleCal.

顔認証で命をつなぐ、災害医療の新しい形

急な大災害時などのマイナンバーカードを携帯していない、紛失している状態でも確認できないか？

マイナンバーカードの携帯率は電子証明書を含めても45.8%!!

マイナンバーカード携帯率

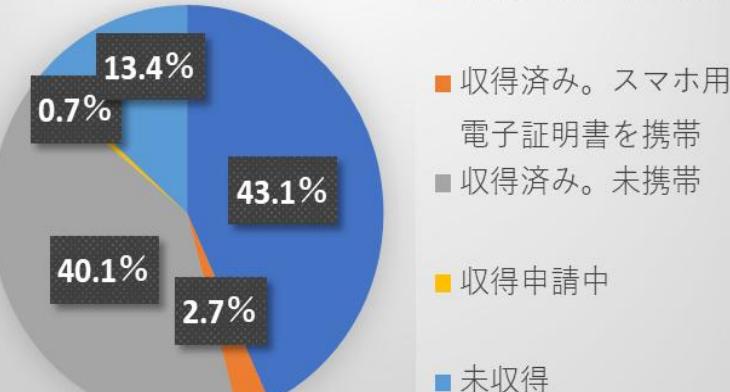


図1 マイナンバーカードの携帯率

背景:

現在マイナンバーカードの健康保険証利用により、患者本人が受診歴や服用している薬を説明できない状況でも救急隊員がマイナンバーカードを読み取ることで情報が確認できる

- しかし、図1のようにマイナンバーカードの携帯率はまだ低い。

利点:

- 『非接触・即時認証』
- 『医療情報の照合』
- 『災害対応力の強化』

類似製品との違い:

一般的な顔認証システムはオフィスや施設向けが多く災害時や高齢者医療の混乱した環境に最適化されていないが、本製品は避難所や仮設診療所など、インフラが不安定な現場でも運用可能な設計を想定

保険情報へ顔認証でアクセスすることができるため会話が困難であったり認知症などによって得られた情報が不確実であっても適切で効果的な医療を行うことができる。

実際に作成した試作

